

パグビラオ3石炭火力発電所 (既設1-2号機および増設3号機) フィリピン



丸紅とTEPCOが最大の汚染源 の1つ—フィリピン最大のIPP— に出資(各50%)



1. 背景と丸紅の関わり

既存のパグビラオ発電所(1、2号機/各367.5MW)を所有するTeaM Energy Corporation(TEC)は、丸紅と東京電力¹⁾が50%ずつ出資するフィリピン最大の独立発電事業者(IPP)の一つである。両社が2006年11月に当時フィリピン最大のIPPであったミラント・アジア・パシフィック社の全権益の買取契約を締結後²⁾、2007年からプロジェクト事業会社としてフィリピン電力公社(NPC)に電力を供給してきた。電力購買契約は2025年までとなっている。フィリピン国内に3つの発電所(パグビラオ石炭火力、スアル石炭火力、イリハンガス火力)を有し、TECの発電資産は、フィリピン全土の全発電資産の約10%を占めている。

増設の3号機は、1、2号機に隣接して建設され、2018年3月27日に商業運転を開始した。事業実施者となっているPagbilao Energy Corporation(PEC)は、TECと現地の大手発電業者Aboitiz Power Corporationの子会社Therma Power Inc.が50%ずつ出資して設立した会社である。

1、2号機の権益取得には、国際協力銀行(JBIC)と民間銀行(三井住友銀行、みずほ銀行など)が2,700百万米ドルを限度に協調融資を行なった。3号機では、三菱日立パワーシステムズ(MHPS)が韓国の大手建設

会社である大林産業との共同事業体の下、EPC(設計・調達・建設)を請け負った。

2. ESG 課題

環境社会配慮(海洋生態系への影響と小漁民の生計手段への影響)

多くの小漁民が、1、2号機の建設・稼働による漁獲量の減少で苦しい生活を強いられてきた。漁場の制限や温排水によるサンゴ礁の破壊、海面への石炭のばい塵飛来などの問題が、小漁民によって報告されている。小漁民らは建設当時、反対運動も行なったが、これまで、適切な補償や生計回復措置はとられないままである。3号機の建設にあたり、小漁民らは海洋生態系への影響が拡大し、益々漁獲量が減っていくことを懸念している³⁾。

環境汚染と健康影響:不十分な環境対策

1号機と2号機が稼働を開始して以降、心肺関連疾患の罹患数が目に見えて高まっていることが報告されている。実際、周辺住民は、20年以上もの間、石炭貯蔵場からの粉塵被害に晒されてきた。特に、西風の季節には家屋の屋根にも黒い粉塵が飛来してくる。石炭貯蔵場には防塵ネットが周囲に設置されているものの、屋根などの補強措置はこれまで取られておらず、事実上、石炭は

野晒しの状態となっている。3号機の石炭貯蔵場も同様の状況。新たな発電設備の稼働により住民の健康状況が悪化することが非常に懸念される。

環境社会配慮 (IFC の CAO への苦情申立て)

同事業は、フィリピン企業の Aboitiz グループと金融上の関係がある民間銀行に国際金融公社 (IFC) が関与していたことにつき、IFC のコンプライアンス・アドバイザー・オンブズマン (CAO) に集団で異議申立てが提出 (2017 年 10 月) されている件のひとつに含まれている。NGO⁴⁾ の支援を受けた地域住民らは、環境破壊および漁民への影響といった被害を同異議申立書の中であげている。同申立ては 2018 年 3 月時点で審査中⁵⁾。



-
- 1) 2016 年以降、東電と中電が出資して設立した JERA が承継
 - 2) 丸紅 PR : https://www.marubeni.com/jp/dbps_data/news/2006/061211.html
 - 3) 小漁民の報告の詳細については、フィリピン環境問題センター (Center for Environmental Concerns- Philippines (CEC)) による環境報告書を参照のこと。環境調査は 2018 年 2 月に実施。
 - 4) 気候正義のためのフィリピン運動 (PMCI)、IDI、BIC
 - 5) こちらを参照のこと http://www.cao-ombudsman.org/cases/case_detail.aspx?id=1266
 - 6) パグピラオ3の発電量：丸紅のプレスリリースでは 388MW と表記されているが報道では 420MW
-

制作：国際環境 NGO FoE Japan、気候ネットワーク

2018 年 6 月

概要

	1、2号機	3号機
発電容量	735MW (367.5MW × 2基)	388MW (420MW) ⁶⁾
発電方式	亜臨界圧 (SC)	
燃料	瀝青炭	亜瀝青炭
事業実施者	--	Pagbilao Energy Corporation
運営	TeaM Energy	Pagbilao Energy Corporation
スケジュール	1号機 1996年6月 運転開始 2号機 1996年8月 運転開始	2017年8月完工、2018年3月 商業運転開始
所在地	ルソン島南部ケソン州パグピラオ町グランド島	
総事業費	--	9億7,600万 USドル